

2 検出した遺構

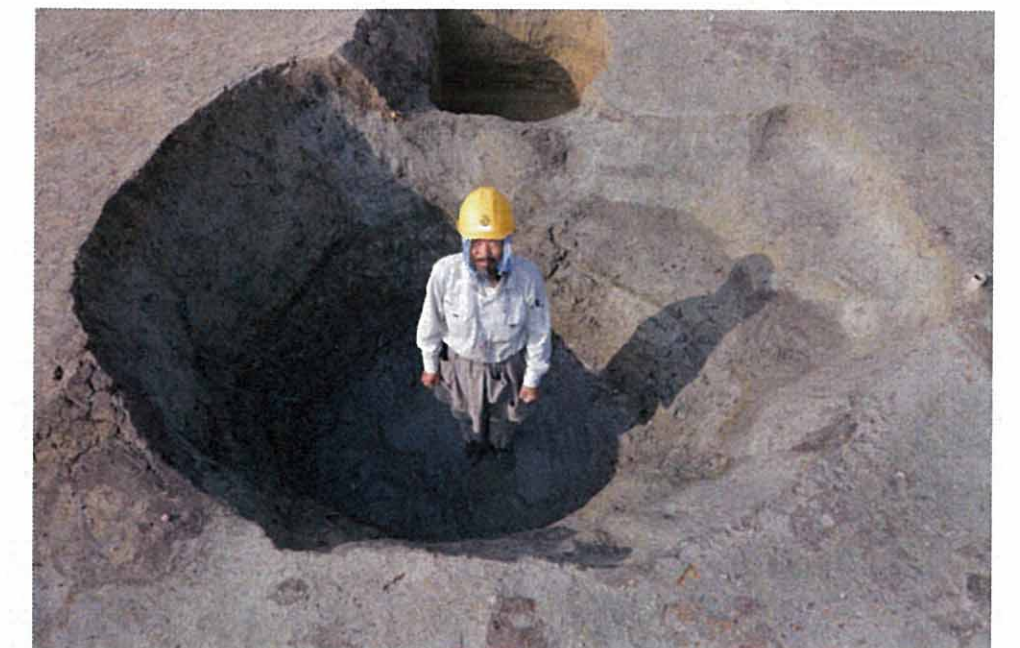
遺跡は全長 380m と南北に長く、鎌倉～室町時代の遺構・遺物が主に見つかっています。遺構は1区南側から2区にかけて特に多く見られ、集落の中心であったと考えられます。掘立柱建物は28棟見つかっており、最大規模の建物は2×5間の身舎で東西に廂が付く総柱建物（総面積 95.4 m²）です。そのほかには2×3間の側柱建物が多く、廂や張り出し部分が付くもの、内部に中柱を持つものなどバリエーションがあります。建物の柱穴は長径 30 ～ 40 cm、深さ 50 ～ 70cm くらいのものが多いです。



遺構の検出状況（南東から）
遺跡の地面をきれいにすると黒いしみ状に穴が見えます。白線のように一定の間隔で並んだ穴が建物跡です。



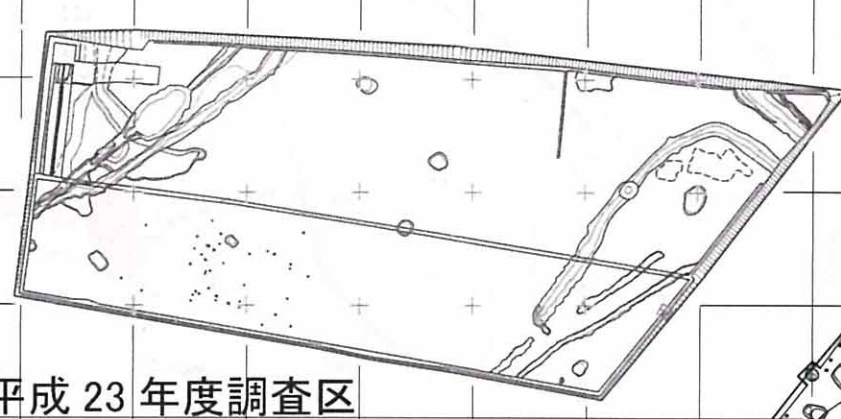
青磁の出土状況
遺跡からは色々な遺物が出土します。主に遺構の堆積土から出土します。写真は裏面で紹介した青磁です。



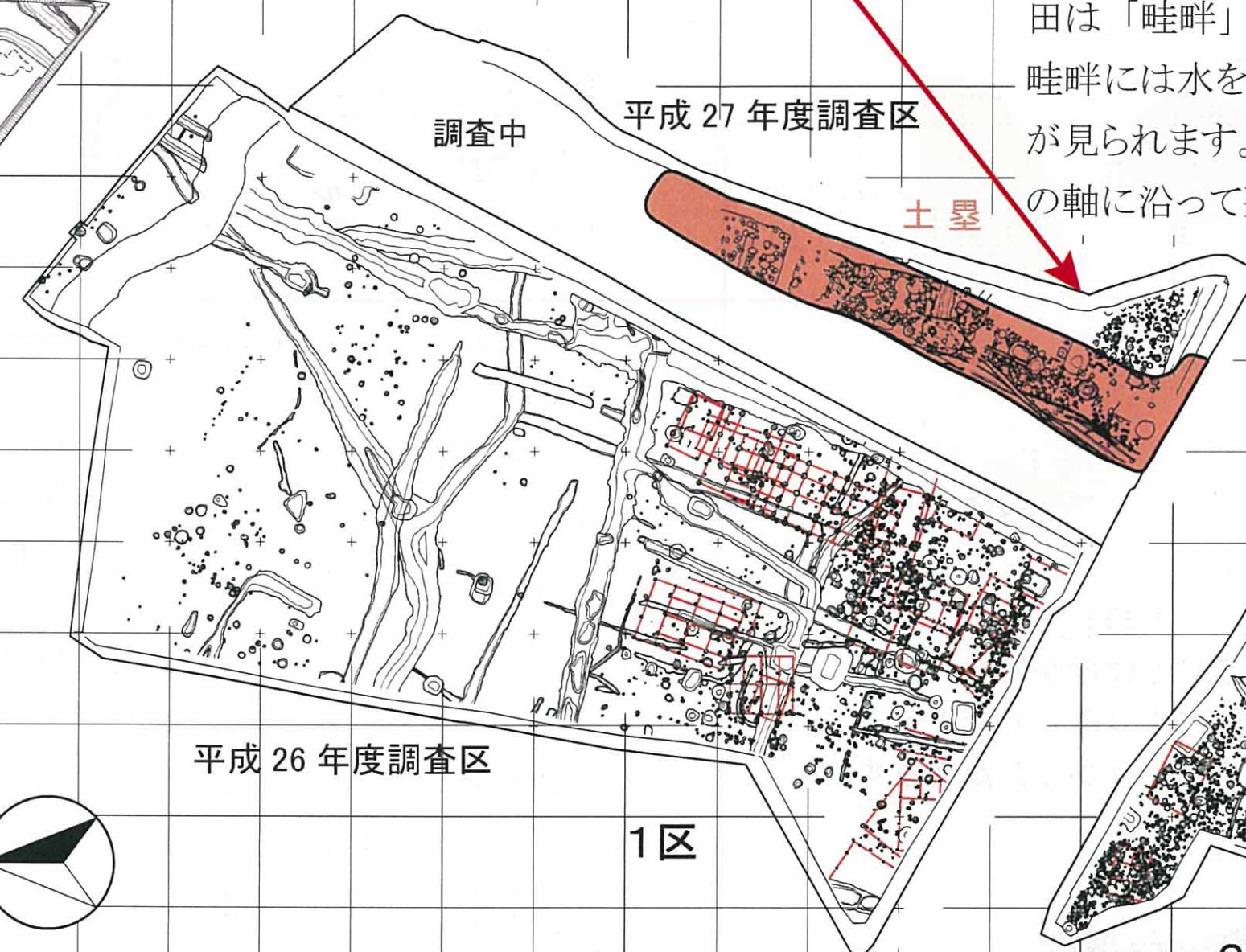
井戸 完掘
井戸の深さは 120cm くらいのもので、中には写真のように 150cm を超えるものもあります。



平成 23 年度調査区



平成 26 年度調査区



1区

2区

3区

山崎遺跡の遺構平面図（1:1,000）※赤線は掘立柱建物

27 年度の調査では「土塁」という土を大きく盛り上げた遺構が見つかりました。土塁は全長 35m で南北方向へ直線的に伸びています。調査の結果、3時期にわたり盛土が繰り返され、室町時代（高さ 1.2m）・江戸時代（高さ 2.5m）・現代（高さ 4.8 m）と次第に高くなったことがわかりました。土塁が築かれる前には、集落が営まれており、土塁の下からは柱穴や井戸が見つかります。土塁の機能はわからない部分が多いですが、現代の土塁は建物の風除けとして使われていました。



土塁 断面（南から）



室町時代の土塁 検出（南西から）

3区では水田跡が見つかりました。水田は「畦畔」と溝により区画されます。畦畔には水を取排水するための「水口」が見られます。水田区画は、東西南北の軸に沿って整然と並んでいます。



水田 完掘（西から）

平成 27 年度調査区



調査中

水田跡



土坑の断面



水田畦畔 断面（西から）